

スカウトみやぎ



2018 / 3 . 1
No.46



特 集 : APR scout Jamboree
in Mongolia 参加記

平成29年度精励スカウト 連盟長へ表敬訪問



12月26日「平成29年度精励スカウト」として富士章スカウトの加藤大和さん(石巻第6団)をはじめ、菊章スカウト4名、派遣スカウト5名、保護者、隊指導者、県連役員などが県庁を訪問し、連盟長でもある村井知事並びに県教育庁生涯学習課長より激励を受けました。村井知事からは「皆さんが日頃の活動を地道に続けてきた努力が素晴

らしい結果につながったと思います。今後もスカウト技能の向上やボランティア活動に励み、自己研鑽に努めてください。」との言葉を頂きました。

「2017ジャンボレット高萩」の報告をした菅原樹さん(仙台第1団)がカブスカウトとしては初めての訪問となりました。

激励の言葉

ボーイスカウト宮城県連盟 連盟長 村井嘉浩

本日はスカウトの皆さんに、お会いすることができ大変嬉しく思います。指導者の皆様には、日頃、県内スカウト活動、ひいては青少年の健全育成にご尽力いただいている事に感謝申し上げます。

只今は、精励スカウトの皆さんに顕彰記念品を授与させて頂きました。皆さんが、日頃の活動を地道に続けてきた努力が、このような素晴らしい結果につながったと思います。今後もスカウト技術の向上やボランティア活動に励み自己研鑽に努めてください。

保護者の皆様、お子さんの受賞おめでとうございます。このような素晴らしい賞を受賞されましたのも、ご家族の支えがあればこそです。是非これからもお子さんを見守り、励まして頂けますようお願いいたします。

現在、子どもたちを巡る社会情勢は大きく変化しております。その中で、安全・安心なスカウト活動を展開する「セーフ フロム ハーム」の導入や指導者訓練体系の見直しなど、時代の流れを敏感に感じ取り課題解決のために柔軟に対応するボーイスカウト活動は、明るい未来作りに繋がるものと考えています。

また、宮城県連盟での活動では防災キャラバンの実施や、他団体の行事への参加やスタッフとしての協力など、地域社会への貢献と交流も多く見られました。大きなキャンプや大会は無くとも、地道な活動を確実にする事が、スカウト活動の充実と新たな展開に繋がるものと考えます。

連盟の皆様におかれましては、今後も意義あるスカウト活動を展開され、宮城の青少年の健全育成のためにご尽力頂きます事を期待し、激励の言葉といたします。

特集 APR scout Jamboree
in Mongolia 参加記

仙台第1団ベンチャー隊 千葉陽介

初めての海外派遣で、モンゴルに行く機会に恵まれるとは思っていませんでした。アメリカやヨーロッパに旅行で行く人は多いと思いますが、モンゴルに行く機会はなかなか巡り合わないのではないのでしょうか。



海外派遣という形でモンゴルに行く事ができたのは本当に貴重な経験になりました。

宮城県からは2人で、日本からの参加は約30人でした。北は宮城、南は大分まで全国のスカウトが一堂に会している状況は滅多にないと思います。最初の二日間は東京のホテルで準備訓練をし、その後モンゴルに出発でしたので、派遣員と友好を深める時間は十分にありました。準備訓練で楽しくて夜更かししたせいで、結団式に体調不良のまま参加した事を反省しています。

成田空港に着くと、遅延のハプニングはありましたが、無事モンゴルに到着しました。



モンゴルの空港から出ると牧草の臭いなのか、独特な臭いが鼻を突きました。本当に鮮烈な歓迎でした。それからジャンボリー会場までバスで移動し、バスから降りたときの目の前に広がった光景には唖然としました。360度どこを見渡してもすべて平野。日本ではビルが立ち並び360度視界が開けているなんてことは滅多にありま

せん。緑と紺碧だけからなる世界は本当に清々しいものでした。

肝心のプログラムは、主にモンゴルの文化体験やフードフェスティバル、アリーナショーなどでした。モンゴルの文化体験では、伝統衣装を着てみたり、モンゴル弓でアーチェリーをしたり、ラクダにも乗りました。ラクダが突っ伏しているときにこぶの間にまたがり、ラクダが立ち上がる時は一気に上に行くので少し怖かったですが、この時が一番モンゴルに来た感があり、興奮を隠せませんでした。

フードフェスティバルでは、各国のスカウトが、伝統料理を振る舞うというものでした。自分は甚平に法被、鉢巻姿で「SUSHI」で世界中に知られている手巻き寿司を提供しました。ちらし寿司と、切ると断面が花になるという色鮮やかな、飾り寿司も紹介して好評でした。

中にはわざわざ日本を訪れて寿司を食べたことがあるという日本マニアも

いて、盛り上がりました。他国の料理の中で私が最も強烈だったのは、モンゴルのヤギのチーズです。乾燥した固形状の物で、味は濃厚で臭みがあり、なにより酸っぱいのです。これを口にして、草むらにダッシュで走って行った仲間を何人も見ました。

開会式は参加者がアリーナに集結し、ダンスやパフォーマンス、演奏で盛り上がるというものでした。これは日本ジャンボリーでも行われますが、一つ違った点がありました。

それは、すべてのパフォーマンスが終わった後に爆音でE D M(うるさい音楽)が流れ出すという点でした。少なくとも自分が参加してきた16NJ、23WSJでのアリーナショーにはありませんでした。(国民性の違い?)皆と音楽にのって踊ったり、大

声を出してはしゃいだりして心の底から楽しむことが出来、この瞬間が唯一7000人のスカウトの心がひとつになっていたなあと感じています。ほかのジャンボリーやジャンボリーでもあれば良いと思います。

プログラム外での活動も充実していました。フリータイムはバスケやバレーをしたり、ネッカチーフ・リングを交換したりしましたが、なかでもモンゴル相撲は本当に楽しかったです。国が違うスカウト同士が円の中で体をぶつけ合う、本当に心が躍りました。

相撲をやっていたのは大体のところ30人くらいでしたが、どのモンゴルスカウトも体がでかいといった印象でした。私も名乗りを上げて参戦したのですが、部活でラグビーをやっているのも思った以上に倒すことができ、日本人は自分だけだったうえ、ピンクの蛍光色のTシャツをきていたので予想以上に目立っていたようです。自分が前に出るとざわめきが起き、負けなしで帰れると思った矢先、連勝のうわさを聞きつけたのか、屈強で体つきの違うモンゴル人に戦いを挑まれ遂にボコボコにされました。それでも試合後は互いを称え合い、握手を交わして熱い抱擁をしたことで友情を生みしました。

ほとんどのモンゴル人には英語が通じなかったため、主なコミュニケーションツールはボディタッチやジェスチャーでした。言葉を話せることはコミュニケーションするうえで大事ですが挨拶交じりのボディタッチもなかなか便利なものだなと実感しました。

今までに参加した16NJや23WSJは、共に日本が開催国であったので自国の空気感から抜け出せずにいたため、無難なキャンプ生活を送っていた面があったかもしれません。今回はゲストとしての参加で、とても新鮮でした。緊張感を持ちシャキッとした気持ちになれば、交流にも身乗り出して参加できました。



また、日本代表としての参加だったので、自分たちの行動やマナーが彼らに日本のイメージを与えてしまうのだと強く意識してました。海外派遣を楽しむと同時に、日本派遣員のスカウト30人の仲間内での絆が深まり、今後も関係を続けていく事と思います。

今回の派遣は自分の青春を形作るうえでの大事なパーツになることで、ここで新しく得たものは貴重で何物にも代えがたい宝物です。

ありきたりな表現になってしまいましたが、それくらい大きな経験ができた貴重な派遣でした。このような経験をしたことを積極的に発信していきたいです。

最後になりますが、今回の派遣に携わり、支えてくださった両親とリーダー方、地区・県連盟の皆様、本当にありがとうございました。



仙台第1団ベンチャー隊 齊藤伸阿

ボーイスカウトを始めて早十年がたち。ベンチャー隊となった去年、初めて海外派遣に挑戦した。当初はアメリカで行われるジャンボリーに参加しようと考えていたが、申込期日に間に合わず、やむなくモンゴル派遣を選択した。色々な人のお蔭で行けると考えると、ただ遊んで帰るだけでは意味が無いと思い、「国際交流」のプロジェクトアワードを計画した。雄大な草原と放牧の国、モンゴルでキャンプするイメージがわからず、少し不安を残したまま成田空港に向かった。

まず始めに、ホテルで2泊3日の事前研修をし、班編成、モンゴルについての学習などを主に行った。宮城県からは2人のスカウトが参加し30名の



スカウトが集まった。

皆が初対面でなかなか会話もできなかったが、すぐに仲良くなり、友達もたくさんできた。全国の知らない人同士でもすぐに仲良くなれるのが、ボーイスカウトの良いところと感じた。

約5時間のフライトで、モンゴルについたときは真っ暗でした。空港を出た瞬間、ほのかに牧場特有の香りがし、「ああ、本当にモンゴルについたんだな！」と実感し、そこからは驚きの連続だった。見たこともないお店の看板や食べもの。市内の見学では思ったよりも、ウランバートルが都会でびっくりした。

しかし、そう思ったのもつかの間、一旦バスに乗ってキャンプ場に移動を始めると、一面大草原。都会から草原に景色が変わったため、一瞬自分

の目を疑った。教科書でしか見たことのないゲルやパオ、牛や馬がそこら中にいた。木など一本も見当たらず、山も全て禿げ上がっていて、まるで自分が映画の中にいるようだった。

キャンプ場に着いた夜は、冷え込んでいたが昼間は暑かった。じめじめしていないのだけが救いだったが、寒暖差で体調を崩さないか心配だった。小さいトラブルはあったが、無事設営も終わり、食材の買い出しに行った。大きなスーパーマーケットに行くと、長蛇の列になってしまいどうしても、参加しなければならないプログラムに遅れそうになったため、一日目の夕食は非常食だった。こんなハプニングもあったが、プログラムをこなしていった。

キャンプ場の水は生では飲めず、衛生環境は決して良いとは言えないので、体調管理に気をつけていた。開会式では曲が流れてみんなで踊ったり、モンゴルの文化を知るプログラムでラクダに乗った。

ジャンボリーの醍醐味であるアリーナショーは、モンゴルの雄大な自然の脅威がキャンプ場を襲い、砂嵐で中止になった。翌日も同じ状態で結局中止になってしまった。楽しみにしていただけにかなり悲しかった。

二年前の世界ジャンボリーにも参加したが、あまり海外のスカウトと交流できなかったため、アワードで「モンゴルのスカウトと仲良くなる」という事を目標にし、自分からガンガン話しかけていった。モンゴル人には英語が通じず、コミュニケーションはジェスチャーで行ないととても大変だった。

しかし、ゲームや歌、スポーツをすることで言語が通じなくても、交流ができることを改めて知った。

さらに、多くの国のスカウトと交流会を自ら開き、英語でいろいろ交流でき、英語をまじめに勉強してきて良かったと思った。日本のスカウトとも親友になるほどに仲良くなり、海外の多くのスカウトと友達になれたのは、自分の中でコミュニケーションに関して大きな自信が得られた。

今回の派遣は少し不安だったが、逆にモンゴルに行っても良かったと思っている。初めての海外派遣でモンゴルに行けたのはとても貴重だった。自分の英語でも、ここまでたくさんを学んでこれたのは驚きで、皆さんにも是非海外派遣にチャレンジしてもらいたい。きっとそれが、自分の生き方を決める大きな指針となり、スカウトだからこそできるオンリーワンの経験なのだ。

今回の派遣は家族や所属団のリーダー方、多くの県連や日本連盟の方々にお世話になりました。自分がこれだけの経験ができたのも、全てサポートがあってこそで、素晴らしい経験をさせていただき、本当にありがとうございました。





迫第1団ボーイ隊副長 富士原孝一

県北地区迫第1団はスカウト数の多い団ではありません。

しかし、近隣の豊かな自然を活かし、各隊毎月2回の活動を行っており、近年スカウト数は微増となっています。

また、次年度はベンチャー隊も復活することになりました。女性指導者が少ないのが悩みですが、

高清水第1団の女性指導者に参加していただき、地区内での相互協力を図っているところです。

そんな迫第1団の伝統団行事として、毎年新年の三社初詣と餅つきを行っています。町内のゴミを拾いながら八幡神社、羽黒神社、津島神社をお参りします。餅つきは団委員さんの担当ですが、スカウトも慣れない手つきで、臼と杵で餅つきをお手伝いをします。つきたてのお餅をスカウト、指導者、団委員、保護者みんなで食べながら一年の幸せを祈ります。



県連だより

平成29年度

第2回スカウトセミナー開催

12月10日、石巻市総合福祉会館みなと荘にて平成29年度第2回スカウトセミナー（ボーイスカウト講習会）が開催され、7名の保護者やベンチャースカウトが参加しました。

主任講師は日本連盟副リーダートレーナー小山猛氏が務めました。

このスカウトセミナーでは、スカウト運動の内容をわかりやすく伝え、スカウト教育の原理と基本的な方法を正しく知って頂くことを目的にしています。セッションの1つには、ボーイ年代のハイキングを体験すること含まれており、参加者は和気あいあい楽しい活動を体験していました。

小山氏は、今年度でトレーナーを退任されるためセミナー終了後に花束が贈呈されました。



ボーイスカウト募集中



保護者の皆様へ

なろう。一人前に。一人前って意外とむずかしい。
自分のことは自分です。困難に立ち向かえる。
こまってる人の助けになる。そんな自分になるために。
そなえよつねに“ボーイスカウト”
ボーイスカウトとは、仲間たちと自然の中で
遊びながら、いろいろなことを身につけて、
より良き社会人を目指す活動です。

お問い合わせ先

□ 県連ホームページタスクチームからのお知らせ

平成25年7月に開設した県連ホームページには、
多くのアクセスをいただいております。

今後も県連行事を始め各地区・各団の活動をアップしていきますので、
情報をお寄せください。

Facebookの情報もご覧頂き「いいね!」「シェア!」を拡散してください。

◇ 県連HP <http://www.scout-miyagi.jp/>

◇ 県連Facebook ボーイスカウト宮城県連盟



検 索

■ 編集後記

◇今年度、最後の「スカウトみやぎ」
を無事発行できました。ご協力頂
いた各位に感謝いたします。

◇特集記事については、紙面の関
係から大幅に削除・訂正をさせて
頂きましたが、モンゴルの雄大さ
を感じて頂ければ幸いです。

◇これからも、宮城のスカウト達
が、グローバルな体験ができる機
会に恵まれる事を期待します。

◇8月には「17NSJ」が、開
催します。当紙でも特集を編集し
ますので、ご期待ください。 K・S

■発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟

■発行者 理事長 和田剛和

■編集 宮城県連盟組織拡張広報委員会
委員長 佐竹孝喜

委 員 鈴木美恵子 松本康男

富士原孝一 岩本日出貴

柿沼富雄 大沼繁雄 渋谷純

〒 985-0841

宮城県多賀城市鶴ヶ谷1丁目4番1号

(宮城県多賀城分庁舎内)

TEL 022-355-6265 / FAX 022-355-6267

E-mail bs-miyagi@r6.dion.ne.jp